

平成19年度第3回山口県県民活動審議会会議事録

日時：平成20年2月19日（火曜日）
10：00～11：55

場所：県庁視聴覚室（本館棟1階）

【発言内容】

（会長）

皆さん、おはようございます。

先日、大雪が降りましたが、被害はありませんでしたでしょうか。また、今日はよろしくをお願いします。

ただ今、知事から本審議会に対しまして計画改定案の諮問を受けたところです。去る6月から5回にわたり小委員会で熱心にご審議をいただきました。委員会の方々どうもありがとうございます。このたび改定案を取りまとめていただきましたので、委員長さんから、審議状況等のご報告をまずお願いしたいと思います。委員長、お願いします。

（計画改定小委員会委員長）

おはようございます。

小委員会の経過については資料がついておりますので、詳しくはそちらをご覧くださいければと思います。簡単に経過についてご報告いたします。7名の委員で5回、小委員会を開催しております。そのあたりは資料をご覧くださいければと思います。この5回の小委員会を開催する間に、先程、部長さんからもありましたけれども、県民活動団体との意見交換会、それから企業の社会貢献活動や市民活動を支援するような担当部局の方とのラウンドテーブル、それから、最後にパブリックコメントをいただいて、そういったご意見をいろいろ踏まえて、あるいは、そういった意見を取り入れながら、この計画の改定に当たりました。

この小委員会の中では、特に、例えば協働のあり方についてとか、あるいは企業との協働という時に最近よく言われています企業の社会的責任だとか、いろいろ突っ込んだ意見なんかもありましたが、なかなか全てを今回の改定案になかなか生かすということは非常にむづかしいということで、改定ですので、様々な部分で次回の基本計画を策定する際に生かしていかなくてはいけないような、そういった課題もいくつか出ております。それから、読みやすい計画にしなければいけないのではないかとか、いろいろ工夫すべきではないかという意見もいただいて、そういった点にも配慮していった訳です。パブリックコメントでもいろいろなかなか鋭いご意見もいただいております。こういったいい意見が出たんですが、私の力不足で、全てを盛り込むという形で調整はなかなかできませんでした。先程も申し上げましたけれども、根本的な部分については、また次回の計画案に生かしていただくということではないかと思いました。

いずれにしても、私と6名の委員さんがいらしゃるんですが、非常にお忙しい中を、熱心にご議論いただきました。とにかくこの基本計画の改定案をまとめることができましたので、ここにいらしゃる委員の皆様、感謝の言葉を申し上げます。どうもありがとうございました。簡単でございますが、以上で小委員会の経過報告ということで説明させていただきます。

（会長）

ありがとうございました。

では、事務局から改定案について説明していただけますでしょうか。

(事務局)

[説明省略(資料1参照)]

(会長)

どうもありがとうございました。

皆さん方からご意見やご質問などを承りたいと思いますが、皆様のお手元に県民活動促進基本計画改定のスケジュールとありますが、ここで先程お話がありました、いつ頃、こういった形で小委員会がもたれたかということの一覧表があります。こちらの方で十分審議された結果がここに文字で表されている訳です。そして網かけしてあるところが今回特に改定しているところだということです。予定としましては、皆さんにご連絡がいつていると思いますが、今日ともう一度審議の場として3月13日、木曜日をとってあると思いますが、十分委員会で審議されたものでしょうから、もし今回だけでいろいろ意見が出尽くせば、次回はもう必要ないかと思いますが、そういった予定になっておりますので、ご了解ください。

では、ご意見を伺いたいと思いますが、主に第3章と第5章のご意見を伺うようなことになるとと思いますが、第1章、第2章も途中で網かけしてありまして、今回、書き加えたりしてありますから、まず、第1章、第2章で何かご意見ご質問がありましたら、まず伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。特に網かけの部分ですが、文言などもございましたらご意見をお出しいただければと思いますが、いかがでしょうか。

第1章、第2章に関しては、もう特によろしいでしょうか。

では、第3章に移りたいと思います。第3章はアンケート結果ですね。グラフが主なものになっておりますが、こちらに関して、先程、事務局から詳しくご説明いただきましたが、いかがでしょうか。県民活動の現状と課題ということで15ページから始まっております。第3章は15ページから38ページまでのところで、何かご意見、お気づきがありましたらお願いします。

ちょっと事務局にお尋ねしたいんですが、今ここにグラフが出ていますが、これは印刷になってくるときには、この文字の大きさということですよ、このままのとりの。

(事務局)

今回お示ししているのは最終的にこういう形でやりたいと思っています。少しデザイン的には字のポイントとかは全てこの形を原稿としたいと思っています。

(会長)

はい、ということです。このグラフに関しては2色刷りとか3色刷りとかあるんでしょうか、2色刷りですか、網かけだとか。

(事務局)

青と黒を基調に考えております。

(会長)

場合によっては青や黒が薄くなったり濃くなったりということに変化をつけるということですね。全体的に基本として中身はグラフに関しても2色刷りということですね。いかがでしょうか、第3章でご質問やお気づきの点はありませんかでしょうか。

(委員)

38ページの新たな課題への対応というのがあるんですが、そこで3番の問題があるんですが、国民文化祭によるとあるが、実は徳島県に行ってみますと、徳島も国民文化祭でその後すごく頑張っているんで、山口県はすでに2年間たったから、この言葉を除けてと、こういう意見でもいいですか。「住み良さ日本一の元気な県づくり」のための10項目、(県庁の正面)玄関にあると思いますが、あの10項目を通して地域づくりをと思ったんですがですがどうでしょうか。以前、二井知事さんの話を聞いた時に、10項目の話をされて大変いい話だなあと思ったんですが。何かというと国民文化祭で、中央があれなんだろうが、地方に行きますとあまり県民文化祭でなくて、どうして地域づくりをやるかというのが結構話題になりますので、山口辺りはどうなのかなあと。県民もおそらく徳島のこともよくご存知であらうと、徳島県はその後大変よく頑張っていますので。その辺で何か、上には書いてありますが、何か具体的なことを入れた方がいい、課題で頑張りましょうということになるのではないかと思います。変なことを言いますが、ちらっと見た時にそう思いました。そういう意見も何かの役に立つのではないかと思います。大変よく練られているから、ただの小さい意見であります。

(事務局)

国民文化祭やまぐちの成果継承と言っておりますが、これについてお話をさせていただくと、「自立・協働・循環」をキーワードによる「住み良さ日本一の山口県づくり」を進めるに当たって、いわゆる5年刻みで全国規模のイベントを展開していると。それは2001年の山口きらら博、それから5年後の2006年の国民文化祭山口、そして2011年の山口国体、それをホップ・ステップ・ジャンプで地域力や県民力を高めて、「住み良さ日本一県づくり」を進めていこうということで、特に前回の基本計画の中で、きらら博を掲げて、今回の中で次の山口国体を睨みながらですね、国民文化祭の成果を継承していくということを位置づけています。特に28ページを見ていただきますと、行政と何らかにの連携・協力したことがあるかという割合が84%とすごく高い訳ですね、県民活動団体と行政との連携が。これはやはり、山口きらら博であったり国民文化祭での、そういう行政と連携・協働して大きな成果を上げてきた一つの現れでもあると考えております。知事も、かねがね言っておりますが、いわゆる、きらら博と国民文化祭と、そういった大きなイベントを活用しながら、ホップ・ステップ・ジャンプで、地域の活力、県民力・地域力を発揮するという事で課題を整理しております。ご理解いただきたいと思っております。

(会長)

5年ごとにそれぞれ大きな行事があって、それを一つの節目にして、それを一つの目標にして、それが終われば、その成果を今度、続けていくということを県民活動に生かしていこうという考えの基にここが書いてあるということなんですが、委員、よろしいですか。

(委員)

意味はよくわかるんですけどね。もう、その家を造る場合に基礎はしっかり固まっているんだから、あまり基礎のことは、うちの基礎は大理石で作っているんですよ花崗岩で作ってますよというのではなくて、家が建った立派な家が建った、国体に関することはもういろいろ強化とか、子どもたちにスポーツ少年団なんかとかやっていることはすごくいいことだと思います。小学生はあなたら国体に関わるんでからと。あんまりいつまでたっても基礎の基礎、基礎をしっかりやろうというのは、基礎ができていけるのだから、あそこに目を向けようというのはどうだろうかと、小さい意見です。県の10項目、すごくいいこ

とで、それをもう少し盛り込んで、高齢化の問題、少子化の問題、産業、水産業・農業とありますね、これを通して地域づくりをやるというのは具体的にそういう面も大事なことはないかと思うんです。私たち地域づくりをやっていて、実は、この前、企業の方と話をしていて、企業を辞めた方で企業のトップの方がいらっしゃって、何ができるか、何もできん、じゃあ山の方に行って畑を借りて小豆を作ったらいい、どうでしょうか、それはおもしろいねえ、それでは何人かのグループがいるからそれを働かせてやりましょうとか、それはいいね、それは地域づくりになりますよと、少し話をした。そういうことです。すみません。よくわかりましたので、失礼なことを言いました。

(会長)

とんでもないです。ありがとうございます。

(事務局)

一言申し上げますと、知事の考え方は、なぜ、国民文化祭とか、そういうことを言うのかということですね、一過性のイベントに終わらせないということです。大きな行事をやっても、それを一過性で終わらせるのではなくて、それをいろんな蓄積された財産を後世に引き継いでいくという想いが出ているということで、よろしくお願いします。

(会長)

他にありませんか。委員、お願いします。

(委員)

65ページ(6)県民総参加の山口国体に向けての取組の推進ということが文章化されているんですけども、この中に、今、委員が言われた、もうカットはされましたが、平成13年のきらら博のこと、平成18年の国民文化祭やまぐちのこと、ここで、県民力・地域力を平成23年の山口国体ではさらに高め、次に「住み良さ日本一の元気県づくり」に繋げていくことが必要ですということが書いてあるので、その辺りも見据えて書いてあるのかな?と私は受け取ったんですが、こういった流れというのは本当に継承していきながら、ボランティアの方の力をさらに発展させていくということなので、委員のお気持ちもすごくよくわかるし、「住み良さ日本一の元気県づくり」というのはこういうふうにいるんなところで出てくるのかなあともちょっと思いました。こんな感じで、どこかにも書いてあるといいなと思っていたので、他にもたくさん書いてあるのかもしれないけど、それぞれの部局でそういう取組をなさっているところが、いろんなところに散りばめられておりわかりやすいので、書いてあるんだなあというところを見つけたので、お知らせしたいなあという気持ちでの発言です。

(会長)

お知らせ、ありがとうございます。そういうふうに、いろいろな仕掛けがある訳ですね。はい、どうぞ。

(委員)

今のことでいろいろ考えたんですが、やはり、県づくりには、ホップ・ステップ・ジャンプですか、本当に大事なところはジャンプの次じゃないかと思うんです。ジャンプした後はどうなんだって感じですよ。ジャンプして登りつめた後のことですよ。その時、我々はいくつになっているだろうかと考えます。あとに続く者たちにいかに継承していくかということを本当に考えなくてはいけないと。小委員会の委員をさせていただく中で、

本当によく思いました。これだけの記述となってね、小学生以前の幼稚園から、今、おぎゃあと生まれた子からですね、本当に山口県に生まれて良かった、元気な県に住もうと、ジャンプでそこまで考えて思いますけど、私のつたない意見ですが、関係ないかもしれませんが。知事さんの気持ちも十分わかりますし、さらにその上を望みたいと思います。

(会長)

はい、ありがとうございます。近い将来も、遠い将来も見据えた形でしょうね。他にはいかがでしょうか。委員、どうぞ。

(委員)

16ページなんですけど、Nが1623というのがあるんですけど、次の17ページの活動分野もNが同じことと思うんですけど、同じように女性と男性のことが書いてあるんですけど、このNは同じなんですかね、単純な質問ですが。いや、男子と女子の比、比率が。何も書いてなくて、ただNだけが1623と書いてあるので。

(事務局)

このNは回答者数です。今、資料を持ってきていないですが、男女は同数ではないです。

(委員)

何か読むときに、次のところはパーセントで表されてますよね。隣のところの分野別のところの男女別のところはパーセント数で表してありますよね。Nの男女の比率がどこにも記載されてなくて、参加したとか言ったらどうなの、男女数はどこにも書いてないんで。男女比の割合が説明してなくて、比べるときにこの割合はどうなのかなと思ったんですけど。この2つのグラフを見比べたときにちょっとわかりづらいついかな、本当はどうなのかなと思ったので。(会長：この回答者の男女比率ですね)こっち側はパーセントで出てきているので、何となく比べるときに本当はどうなのと。できれば男女数があつた方が見比べる時にいいと思うんですけど。

(事務局)

母数の中で1623、それぞれ100%回答なんですけど、男女の比率のパーセントが出ていないので、あつた方がいいですかね。

(委員)

入れられれば、あつた方がいいですね。

(会長)

イの地域活動の参加者数の方にもあつた方がいいですかね。

(委員)

いや、どちらも同じですから。

(事務局)

もう一度整理しますと、回答者数1623人ですよ。これ全て100%回答になっていますから、男女それぞれ100%回答いただいておりますので、1623人の内訳が、女性が何人、男性が何人ということを示すこととして、ここは、わかりやすく整理しまして。

(会長)

他にはいかがでしょうか。委員、どうぞ。

(委員)

先程のきらら博や国民文化祭、たしかに皆さんおっしゃるように、多少古くさく感じて
もこれは記載する大きな意味があるのではないかと私も賛同いたしました。そして、先程
から皆さんもおっしゃっていますが、次代に繋いでいくという大きな目的を考えますと、
今回のアンケートの中に本当によく表れていると思うんですが、20代、30代、40代
の方がなかなか参加しづらいと、そういう現状があるということ、ああやっぱりだという
気がするんですが。それに対して企業側に話を持ちかけていただく、こういうアンケート
をしていただくというだけでもかなり認識が高まっていくのではないかと思います。私
はこの会に入れていただいて、やはり、若者、大学生から働く若者、そういう人たちに是
非ともこういう活動に参加していただいて、この山口の良さを伝えていくということが、
本当にこれから先、ジャンプ後ですか、大切なことだと思います。そういった意味では、
大変有効なアンケート調査をなされていると思いますし、これも一つ、第一ステップ、い
けたのではないかと感想を持ちました。ありがとうございました。

(会長)

では、他にいかがでしょうか、第3章に関して。

私、議長なんですが、先程話したイのところ、これも男女別があるといいと思うので
すが。地域活動への参加者の年齢層別のところ、男性・女性合わせたものですが、男性で年
齢別、女性で年齢別というのが加えられないでしょうか。

(事務局)

今、どういう分析をしているかどうか、ここでは情報がちょっととれませんので、すみ
ません。

(事務局)

私の経験では、一般的には女性の方が社会参加活動は活発ですね。特に、年齢を重ねて
いかれると、特に女性の方が活発に行われている傾向がありますね。

(会長)

はい。第3章、いかがでしょうか。よろしいでしょうか、第3章に関しては。

では、第4章に関しては特に網かけがありませんので、その次の大きく変わっておりま
す第5章に移りたいと思います。網かけの部分で濃くなっている部分は新しく追加する項
目や項目名が変更されたという形になっております。薄い方の網かけは言葉の変更などが
あります。この第5章が51ページから80ページまでですが、こちらの方でご質問やお
気づき、ご意見、そういったことはないでしょうか。

(委員)

よろしいでしょうか。ガイドブックのことなんですが、こういうことを言ってもいいか
どうかわからないんですけども、企業でもやめて、70人くらい退職があるらしいんで
すけれども、ときどき公民館で、何をしてもいいかわからないんですけども、何かいい方法
はないかなという話が出る。このガイドブックはどういうことが盛り込まれるのかちょっ
とお聞きしたい。

こういうことがある、こういうことがあると、ご案内のようなものはあるんですかね。みんな情報が欲しい情報がほしいというんですが。何をしたらいいんだろうという話がありまして、ガイドブックというのがあります。

(会長)

「県民活動団体との協働に関するガイドブック」ということですか。

(委員)

何か、一般に出回っていて、こんなのがあるから、ここへ連絡をとってやってみようというのがあれば。その内容をどういうふうに考えておられるかをお聞きしたいということです。

(会長)

ガイドブックの内容だとか、どういうところに置いてあるかということによろしいですか。

(事務局)

今、ご指摘のことなんですけれども、団塊の世代の方とか、退職された皆さんに県民活動に参加していただくというのは、非常に大きなところで、新たな課題としてもっております。それで、そういう皆さんに対する情報の提供というのは、大きな課題で一つ一つやっていかなければいけないというふうに考えております。それと先程申し上げたガイドブックの方はですね、どちらかといいますと個別の方に参加していただくという情報を提供するというよりは、県民活動団体の方とか企業の方に、行政との協働、企業の方はあと県民活動団体、県民活動団体の方は行政や企業と協働するとき一体どういう点に気をつけていただいたらいいのかという課題があるのか、どういう情報があるのかというふうなことをですね、お示しする方に力点をおこうかなと考えております。ですから、今ご指摘のございましたことについてはガイドブックというよりは、他のいろんな事業で今後対応していければなと考えております。

(委員)

女性の参加率が高いとか、男性はなかなかチャンスがないとか。是非よろしくお願ひしたいと思います。男性の方も、結構ノウハウを持った方がいるんですけれども、なかなかそういったチャンスがないので。先程ありましたが、老人クラブでパソコンをという話もありましたが、探したら結構おられるんですね。おもしろいのというから、あんたらグループをつくってやったらと言うんですが、そんなグループもいいなあということもありますから、是非そういうことをPRしていただければと思います。

結構レベルも高い、男性でレベルの高い方も結構おられます。女性云々というのは訂正します。

(委員)

今のことで、少しこれに関係あるんですけれども、結構、県の支援センターだとか、各市にも市の支援センターというのがあるんですが、そこで情報を結構持ってますし、団体登録も受け付けていますし、団体紹介等もできますので、市の支援センター等を利用していただいたらと思うんです。何かしたいんだがということで来られると結構困るんですが、こういうことがしたいんだけれどもと言って、ある程度、得意分野というのをはっきり持ってこられた方が見つかる率が多いという、というのがあります。何かしたいんですけど、

ボランティアがしたいんですというふうに来られるんですけども、団体紹介の250団体くらい載った紙を渡して、いろいろ分野もありますよというの言うんですが、なかなか決められないというのが現状で、例えば今あったように、自分はパソコンが得意なのでそれを活かしたいと言われた方が、早く見つかるような気がします。また、今回のデータを見て、私たちもよく情報発信をしなければならないことはわかったんですけども。探している人も本当は自分は何をしたいのかというのを具体的に突き詰められた方が、早く見つかると思います。私もそういうのを言っていかなければいけないのかなと思いました。

(委員)

やりたい人はいるんですが、あそこに頭を下げていくぐらいならパチンコにいった方がましじゃという人もいまして。誘ったら非常に熱心にされるんですね。すごいなあ、あんなに英語ができる人が、そんなに英語ができるなら中学に遊びに行ったらというと、それなら行くんです。一緒に行こうかと言ったら、結構やられるんですね。

(会長)

多分、そういう方のために、委員がおられるんだと思うんですね。そうやって水を向けてくださって、何かしたいという人が、何ができるかということを確認するためにいろいろなお話をしてくださって、実際に連れて行かれるわけですから。そういう人との関わり合いの中で、誘われながらやっていくというのが、ボランティアの一番はじめのきっかけとしては多いですから。貴重な役割をしておられるんだと思います。

(委員)

ついでに、もう一つ。団塊の世代というのは、企業を辞めたんだから、いかにして恥をかくかということに慣れていかなければいけませんよと。恥をかいても60のおじいさんだから大丈夫というから、思い切っているところに行かれたらどうですかという話をするんですが。皆さん、力はあるんですよ、しかし恥をかく勇気がない。実際に恥をかけることはないんですけども。恥をかける勇気のある方が少ないから、一緒に恥をかきましょうと誘っています。

(会長)

はい、ありがとうございます。

(委員)

今度、国体がありますが、国体のきらめきセンターを受けたのが、市民プロデュースという私どものNPO法人なんですけれども。是非、そういう方には、お花を植えたり、お掃除をしたり、おもてなしをしたりということで、そのうち、今ではないんですけども募集しますし、そういう情報を皆さんに、お伝えしていく場も、どんどんこれから動いていくようになると思います。本当に地域で行われた、この間の国民文化祭と同じようにそういうおもてなしであるとか、自分がやれることについて、お花で地域を一杯にしようかというのは、今から準備をしないとできなくなってしまいますので、いろいろなことについてご説明に上がることが多いと思いますので、是非、協力してくださるようお願いしておいたいただいたらなと思います。そういうのも含めて各地域のセンターと連携がとれるといいなと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

(会長)

はい、ありがとうございます。

はいどうぞ。

(委員)

今いろんな話が出てきて、それに関連してのお話なんですけど、あの、ボランティアというのは報酬が実際にはあるんですよ。報酬のないボランティアはないという話があるわけですが。結局、団塊の世代とか、いろいろな形で参加するときにですね、その関わり方というのは、非常に課題があるのではないかという感じがするのですが。

ボランティアをやると実際に報酬がある訳なんですよ、例えば、この2月23日、24日に、「人づくり・地域づくりフォーラム」というのが、山口市のセミナーパークであります。私もこれにボランティアで参加しているんですけど、100人のボランティアがサポートするんですけども、そこに参加するとですね、例えば、いろいろな人に出会えるとかですね、イベントを外から参加するのではなくて、そのものの企画とか、会場整理とかを直接やることによって、より、フォーラムといったものを楽しめるということなんですよ。あるいは、司会をすれば、発表される方の中身をより深く理解できるとかね。その人との新しいつながりができるからと。そういう視点というか、少しボランティアをやったらという視点ではなくて、ボランティアをやることによって、新しい世界が生まれてくるよという流れが非常に大事じゃないかと僕は思っているんですよ。

だから、ボランティアの成果とは何ですかと言ったときに、そういうふうに考えていくと、やっぱり、自分が主体的に関わらないと成果というのはないんですよ。お手伝いをしたというだけでは、ボランティアの本来の報酬というのは得られていないというふうに思うんですね。だから今度、国体ということで、ボランティアセンターを作ってこれからやられると思うんですが、そこにボランティアをやることによる報酬というもの、こういう報酬がやることによって得られますよというアドバイスというか、導き方というものが非常に大事なんじゃないかということ、今、感じているんですよ。

東京マラソンがこの間終わりましたがけれども、1万2千人のボランティアで、400人のリーダーがですね、41種類のボランティアで運営したと。で、ああいう中にボランティアセンターをちゃんと運営して、ホームページも公開してやったわけですけども、そういう中に、得るものがたくさん出ているということだろうと思うんですね。

まあ、国民文化祭を活かすというのは、そういう意味合いで活かしていくということだろうと思うんですね。どうもボランティアというのは、やったら、やりなさいというお誘いの感覚ではなくて、もうちょっと、積極的なものじゃないかという感じが今しているんですよ。

そこらをみんなが共有して行く必要があるんじゃないかなと思っています。

(会長)

はい、ありがとうございます。ボランティアって何かするという事だけでなく、そこに学びがあるし、また、やったことに対して、経験があるということをお伝えすることによって新たなボランティアの人々を掘り起こしていくことだろうと思います。

ありがとうございます。他にはいかがでしょうか？

(委員)

第5章の53ページのところ。2がありまして、自主的・主体的活動の向上、促進のための環境整備の展開方向というのがありまして。その7番に情報ネットワークシステムによる情報提供の充実っていうところがあるんですけど、これが項目名が変更されているということと、内容のところにも少し網掛けがあって、で、この項目が職業柄、自分が大学の

方のボランティアコーディネーターをしていますので非常に大事だなと思うんですね。それがなぜ大事かと思うかと言いますと、2点ありまして、1点は特に先程来から話のある、若い方は参加が少ないと言うところで、若い方は非常にインターネットを使うとか、情報をこういうもので見ても大人ほど疑わずに、こんなん言っているけど本当かな、県に聞いてみようとか。顔を見た人でないとよくわからんとか、口コミで言うよりは、そういうのを見るとすぐちょっと応募してみようと思ったり、あと、こんなんがあるんだけどどうかねと聞きに来てくれたり、割りと、そういったシステムに対する拒否反応とかバリアが大人よりは低いので、こういう事を充実させることがちょっと県民活動で弱い年代層の部分にアピールすると思うので、大事と思うことが1点。

もう一つは逆に私達ボランティアコーディネーターっていうのも、すごくこういうのに頼って、毎日、職員さんをお願いして、情報の更新があるかと思って県内中のあらゆる、例えば生涯学習とか国際協力であるとか、社会福祉協議会であるとか全部見るんですけど、リンクもされてるんですけど、せっかくシステムがあってもそれぞれの団体が全然更新してないんですね、更新されてない。それからせっかく例えば県民活動支援センターなんかもリンクはあるけど市町村の全部のセンターとリンクできてなかったり、だからこのシステムを県の方でここに書いていただくというのは大変大事なことなんですけど、できればいつでもどなたが主体になってもいいんですけど、こういうネットワークシステムに関わる主要な団体の担当者研修であるとか、あとは、よく県の中に、学習拠点のネットワークってありますよね、ああいったところのネットワークで、ちょっとこういう事を、県民活動支援センターの方とか、県の担当者からお話をさせていただく、これは重要なことですよ。だから、ここも指針にあるだけではなくて、そのネットワークにジョイントしている人たちの意識も少し。どちらかということ、最近NPOさんとか、NGOさんとかは、最近ホームページを持つようになって、大分、充実しているんですけども、財団さんとか県、市のリンクしている機関の職員さんが、もう少し活用の意識を持っていたかと、ということです。だから、これは大事なんですけども、また、何かの折にいろいろの人に伝えていただけたらと思います。

(会長)

はい、ありがとうございます。この場を書いてあることを、実際に人々に行動に移していただいて、より活性化していくということですよ。はい、ありがとうございます。

ほかに、いかがでしょうか。

(委員)

今のことに関連してなんですけれども。本当に公のところのホームページなどは、入りにくいんですよ。本当に使いにくいんですよ。若い人たちは、携帯電話なんかで簡単に情報を得ていますから、それに比べて、とっても使いにくい。例えば、私なんか更新したいとか、次にやるイベントの告知をしたいと思って、入り込もうとするんですけども、パスワードが必要だったりですね。ちょっと、そこら辺をもう少しオープンに、気楽にできないかなという希望をいつも持っています。で、パスワードとか言われると、もう後にしようということになって、もう時期が過ぎたりしたりしますので、本当におっしゃるとおり若い人たちは、どんどん使っていますので、もう少しこの辺を対応するようにお願いしたいと思います。

(会長)

特に、若い人たちをそういう活動に引き込んで行くということは、課題ですから。それ

で情報を受けやすい、発信しやすいというのは、大切なことだろうと思います。
ありがとうございます。

いかがでしょうか。他に、はいどうぞ。

(委員)

この会に入って、いろいろ勉強させていただいております。県民活動を推進するという
ことで、この文書ができているわけですから、自分の周りを見て、一番最初のところが、
町内会かなと思っております。やはり、そこでいろいろボランティアをしてくれる人は、
ほとんどお年寄りの方なんですけど、この町内会とそういうボランティアセンターとかの
パイプをですね、もっと強くしていったら更に今までそういうボランティアをしたことがな
い人が、参加意欲を燃やしてくれるんじゃないかと思ったり、私も町内会の再構築と申
しますか、若い者が出ないとか、いろいろ文句を言われるんですけど、その辺からやって、
そのことによって、また、参加してみようや、町内でこういうボランティアをしてみよう
やというふうな形がとれるようにしたいなと思っております。今回これ3000部発行さ
れるということで、私はここで関わっていたから隅々まで読んでおりますが、この300
0部を送付した先が、どのように活用していただけるかというのが、すごく興味を持って
おります。

これ送付しただけだったら、そのうち開かないのがどれくらいかなと思いますが、是非
そういうフォローアップをですね、せっかく、こういうことをしているんだなというのが
すばらしく煮詰められてやっておられるものをフォローアップして欲しいなと、そう感じ
ております。町内会との連携とその後のこの本の活用について、一言、言わせていただき
ました。よろしく申し上げます。

(会長)

はい、ありがとうございます。

地域との連携ということだろうと思います。ちなみに、3000部の配布先というのは、
今おわかりになりますか。およそで結構ですけども。

(事務局)

まず、行政機関、市町等にはお送りしますし、それから、これに掲げております県民活
動支援機関等々に送付します。それから県民活動支援センターに登録している約800団
体とNPO法人等にも送付いたします。それと同時にですね、概要版を作ろうというふう
に思っています。今ここに持っていますとおり、前回は概要版を作っています。特に平成2
0年度から平成22年度の間計画でありますので、例えば多様な主体との協働の促進と
か、先程から意見が出ております若い世代、また、シニアの世代の参加促進ですね、こ
ういったものは、概要版を少し多めに作るとかですね、ご意見もございましたように自治会
等にもね、末端まで行くかどうかはわかりませんが、市町の窓口においてもらうとかです
ね、そういう工夫はしたいと思っています。

(会長)

はい、ありがとうございます。

第5章のところ他にご意見はないでしょうか。

(委員)

私、例えば、県民総参加という言葉の意味を持つところの国体の部分ですが、それ自体
は、非常に言葉として伝わってきているんですけども、現実には、16ページに地域活

動の状況をみますと、年齢層にも違いがありますが、ほぼ6割ぐらいの方が活動をしていて、4割は活動をしていない状況を見て、この県民総参加という言葉が、スローガンあるいは、総参加したくなるような活動にしたいという意味なんだろうと思います。で、私自身が、こういうパートナーシップの必要性というのは十分に理解しているつもりですし、その辺のところを、いかに眠っている県民、主体的に活動できない県民を起こして、なるだけ先程、福森委員の意見がありましたけれども、ボランティアあるいは、主体的な参加による報酬を県民全員が享受できるような社会づくりが必要だということを強調できればというふうに思います。

そのためには、参加したくなるような手だてはどういうふうな方法があるのかと。この中には、書いてあるのかと思いますが、2点あって、一つはパートナーシップの必要性を説くという理詰めで行くのと、もう一つは、主体的に参加できるような、その気にさせるような働きかけ、これも、中に情報を伝えるとか、働きかけるといふのがあろうかと思うんですが、その辺のところでは参加の意識を変える手だて、方法当たりを根付かせるということがあるといいんではないかというふうに感じました。

そのところが、総参加というところの現実との乖離をどういうふうに取り除くかということで、こういう委員が総参加というのはいいいんですけれども、知事はリーダーですのでそういうふうにならざるを得ないと思わなければならないと思うんですけれども、行政側がいうといつも市民への肩代わりということが半分あると思いますので、そこではなくて、我々県民がそういうふうに行っているんだというところの強調、必要性を掲げればいいいんではないかなと思います。

(会長)

はい、ありがとうございます。

(事務局)

先程から出ていますけれどもやっぱりですね、私ども、この中にも盛り込んでいますけれども、重要なことは、やっぱり情報を広く発信するということですね。その手法として、私どもが現在やっているのが、きらめき財団もやっていただいておりますが、例えば、出前講座ですね。いろいろな老人クラブとか自治会とかですね。企業等で今から団塊の世代の方々が退職するにあたってですね、退職後のいわゆるライフワークの中でですね、県民活動の関わり等について、先程ありましたように講師なんかで活用して、広めていく手法というのがやはり大事だろうと考えております。

それで、いろいろな情報を提供する中で、最近の顕著な事例としてはですね、国民文化祭の成果の一つでもあったんですけれども、竹林ボランティアですね、これが県内ですごい盛んになっています。当然、いわゆる放林竹林ですね、いわゆる林業関係に圧迫を加えるというのももちろんですが、そこに竹垣を利用した文化団体と竹林ボランティアとが連携して竹を切り出して、竹垣を作るということですね、各地域に下関から岩国まで広がってきておりますけれども、そういった場合にも、かなり市内の方が参加されておられます。そういった情報をですね、広く発信することによって体験していただいて、その喜びを知っていただくということが重要と考えておりますので、今後ともそのように努めてまいりたいと考えております。

(会長)

はい、ありがとうございます。

では、委員どうぞ。

(委員)

ちょっと、紹介をさせていただきたいんですが、63ページのところに網掛けがしてありまして、中山間地域での廃校等の利用というのがあります、この(4)のところですが。

今日、お配りしてもらっている資料の中の一番最後のところに、1ページほどホームページのトップページをいれていただいています。

これは、県の委託事業で、生涯現役社会づくり学会というのが、地域資源バンク、山口県における、今現在、廃校を中心にしましてですね、どういう使われ方をしているかというふうなことも含めながら、この廃校、閉校の情報を公開しております。

地域資源バンクというふうな形になっておりまして、ここの中には、空き店舗とかですね、そういうものを将来入れていこうという考え方もあるんですが、現在は、廃校、閉校で、これを使われているところを県内をピックアップして紹介するというので、まだまだ、これ中身が不十分ですので、実際の活動をもう少し詳しく充実させていこうというふうなことで今動いております。ちょっと、この場を借りてご紹介したいと思います。

(会長)

ありがとうございます。

では、委員どうぞ。

(委員)

この中の文書のどこにあるかわからないんですけども、やはり情報ってとても大切だなと思いました。よく山口県はテレビとかで、いろんな二井知事さんが出ているときもありますが、県民活動を取り上げている番組って今でもあるんでしょうか。

(事務局)

県民活動の取り上げ番組については、民間の視聴者参加番組がありますよね。国民文化祭のときは、広報戦略として地域でやられている活動を、そういう例えば「熱血テレビ」だとか、TYSの「ちぐまや家族」だとか、そういったところで取り上げていただいて、どんどんPRいたしましたけども。最近ではトピックス的に特別な活動をされているような場合はニュース的なことで取り上げることはありますけれどもね。常に情報を提供しているということはないですね。

(委員)

何のテレビか忘れたんですけども、よく日曜日の朝に15分くらいの番組がなかったですかね。ああいうのに県民活動をPRするとか、ボランティアの人が活動しているといったようなコーナーってなかったですかね。

(事務局)

定期的に必ずそのときというのではないですけども。トピックス的にいうのも、県全体でやっていますのでね、スケジュールをとってその中で取り上げるというのはあります。

(委員)

ああいうのにも取り組んでもらって、あの枠とは別に新しく県民活動のコーナーを5分でもいいから、ラジオでもいいから、そういう広報コーナーなんかを作ったら、目で見たいものはすごく刺激的なんですよ。これだったら自分でもできそうだなとか思ったり、こんな

のをやっているんだったら自分もやってみたいと。こういうインターネットとか使える人というのは、どちらかというと若い人なんです。私とかは、パソコンを開いて、わざわざ情報を取ることが苦手なので、よほどそういうのに精通していないとパソコンとか使いにくいので、一番手っ取り早いのは、ああいうメディアではないかと思います。だから、もしも大枠で予算が取ってもらえたりするのであれば、たった5分でもいいので、今週の県民活動のコーナーみたいなものを、どこかにぼこんと入れてもらって、こういう活動をしている団体がいらっしゃいますというような紹介が、週に1回でもあればいいんじゃないかなと感じました。以上です。

(会長)

ありがとうございます。

では、是非県で予算を取ってくださいね。

確かに、目で見て活動を紹介できるというのは、いいことだろうと思います。

不特定多数の方に、いろいろな年齢の方にPRできるんだらうと思います。

他にご意見はないでしょうか。

(委員)

確認ですけど、パブリックコメントの意見、20件なんですけど20人ですか、どれくらいご興味のある方が。横の資料の7ページに、パブリックコメントによる意見の概要ということで、意見の件数は20件と書いてあるんですけども、同じ方が何件か入れていらっしゃるのでは。何人くらいですか。

(事務局)

全体では10名弱くらいです。

(委員)

10名弱、そうですか。はい、わかりました。どれくらいいらっしゃるのかなと思いをして。

(会長)

第5章に関してはよろしいでしょうか。何か、ご質問やご意見などありませんでしょうか。

もしなければ、あとは第6章、第7章になるんですが、ここは特に、用語解説になっておりますので、特に問題ないと思うんですけども。用語解説の方でご質問やご意見がありましたら承りたいと思いますがいかがでしょうか。

(委員)

16ページの真ん中辺の網掛けのところなんですけれど、例の毎年やってらっしゃる促進キャンペーンですかね、それもちょっとマンネリ化されてて、去年、下関であった大会も参加したんですけど、ちょっとさびしい感じで、お声かけというか、下関市民への広がりはずっとなくなかったといった言葉がとても市民の人に怒られるかもしれないけれど、そんな気がしました。毎年こられている団体のお顔は見ましたし、私も数年、この5~6年は続けて全部行っていると思うんですけど、ちょっとさびしいのと、協力してらっしゃる国際協力とか、ケニアの支援の方とか、すごく国際的なところはしっかりあったんですけど、ただ下関30万人もいるところであって、その前の時はセミナーパークのあのさびしいところであってどうなのという感じでは、これはキャンペーンとしては失敗

で、声かけとか、あるいは広報の仕方が悪いですかね。下関市は全然協力してないみたいなちょっと感じがして、会場も探そうと思ったら全然分からないような感じの、全然表示とかもきちっとできてなかったし、そういうところが、せっかくこういうお金を使って、しっかりした、あんな立派な方のご講演があって、あんないいご講演があったのに、もっと車いすの人が一杯聞いているかなと思ったら、車いすの方はほとんどいないとか、これはどういうことなのか。例えば、車いすの方がご講演されるんだったら、車いすの方がちょっとでも次の日は元気になって私もできるかもしれないと思えるような人に声がかかっているかと思ったら、かかっているもこなかったのか、それはわかりませんけれど今回はとても不服に思いました。これは、今回またボランティアセンターでも運営委員会がありますからお返ししようかなと思いますけれど、ちょっとお金を使うんだったら、もう少しキャンペーンなんだから、さっき言われたように毎年1カ月に1回スポットで流すためにお金を使って、促進キャンペーンはやめて、年間促進キャンペーンにするとか、ちょっとお考えが。私たちも参加しててこんなことをいうのは情けないんですけども、ちょっと思いましたので、今回すごくショックでした。

(会長)

ありがとうございます。

(事務局)

どうも貴重な意見、ありがとうございます。平成20年度のキャンペーンについては、その辺りの意見を踏まえまして、広報のあり方等を工夫したいと思います。

(オブザーバー)

今言われたのは、県のボランティアフェスティバルのことだろうと思うんですね。あれは、きらめき財団が主にやっているわけです。今回は今言われたように、下関が会場であったと、海峡メッセというところで会場がバラバラになったとか、いろいろと条件も悪い方に重なった面もあります。そういったことで、今年はまた、セミナーパークに戻します。セミナーパークに戻して、集中的にやるということにしておりますが、声をかけるというのも多面的にずいぶん声をかけてはいますし、またテレビなんかでもやっているんですが、今言われたような形がうまくいっていないという面もあるかと思えます。それと、どのような対象を主体にして、県民活動をどのような今回はやろうとするのか、目的をしっかりとしないといけないなと思えます。今ご指摘があったことも含めて、これから新たなやり方でやっていきたいと考えておりますので、どうかご協力のほどよろしくお願いいたします。

(会長)

ほかにご意見ありませんか。

(委員)

今のことに関連してなんですが、私は生涯現役社会づくりフェアの実行委員で、企画の方のお手伝いをしたことがあるんですが、いわゆるどこに声をかけて、どういう人を動員していくか。いわゆる行政的な方から考えると、いろんな例えば老人クラブとかそういうところに声をかけるんですが、ここらがネットワークとか、市民のパワーとか、ボランティアの力というのを、そういう視点で作り出していく必要があるんじゃないかという感じがしているんですね。なかなか実際には、既存の組織に声をかけて集まってくれと、すると、そういう人たちはもう弁当が出るぞと、忙しいんだけど5人集まらないといかんというふうなことでは、団塊の世代を集めたいと思って企画しても、では団塊の世代をどうや

って集めるんだということになると、なかなかネットワークがないということも実態なんですね。だから、これは一つの大きな課題だろうというふうに思うんですね。これは、本当にやろうと思うと、半年くらい前から企画運営とか、裾野を広げるとか、そういうことをやらないとなかなか大変なんですね。だから、そのことをやること自体も、実際にやる方も大変じゃないかというふうにも思うんですね。やっぱり梶間さんのお話も、いろいろなことでお互いに悩んでいる問題だという感じがしているんですね。これが、広がりということと、ネットワークとか、参画していくとかいうことになるんじゃないでしょうかね。回答になってませんが。

(委員)

下関の人間で、この場にいながら参画しなくてほんとに恥ずかしいんですけども、自分のところの活動が大変だったのでできなかったんですけども、確かに、地域性があって、下関というのもなかなか人口が多いだけで、広くて周知されないというところがありまして、難しい点もあるんですけど、ただやっぱり今回は立ち上がりも悪かったと思うし、つかまりにくかったということもあると思います。それと講演会プラスアルファではちょっと飽き飽きしているところもありまして、何かとてつもない面白いことを考えたらどうかと思うんですね。何かいつも枠につながっていなければいけないような気がしますから。特に、下関みたいな情報の多いところになりますと、そのくらいでないと集まらないですし、中で動いていらっしゃる方は目玉になるものを探してらっしゃいましたけど、そこら辺の何か枠決めのようなものがあるんでしょうか。それとも、人がひとしきり集まってくれるんだったらそれでいいのか。私は、そもそも県民活動というのは楽しむものだと思いますし、義務でも何でもありませんから、若い人もほんとビール片手にくらいの気分で、そういう少し枠を外してみてもどうかと思うんですね。また、再検討をよろしく願います。

(委員)

今、話題になっている点なんですけれども、県民参加のための環境整備の展開という中の一つ、広報やイベント開催などを通じてというところで、今お話が進んでいると思うんですけど、私は、県民活動促進キャンペーンという特定のことでお話しする訳ではないんですが、イベントの開催などにつきましては、例えば、昨年10月に行われました全労済フェスタという、大きな民間企業と申しますか、全労済さんのフェスタで、当初、参加者がおらんで困るんよ、高見さんところも何でもいいから出してと言われて、私の方も出したんですが、結局いろいろな団体にもお声かけさせていただいて、当日、蓋を開けてみたら5千人から1万人来てほしいとっていたお祭りが1万5千人以上来て、きららドームのところの駐車場が満員になって、人々が並んでお祭りの会場に入るのを待つ、食べ物も足りないよというくらい、実行委員の方々は嬉しい悲鳴を上げられたんですね。逆というか、今、お話があがっている、さっきのお話の事例は、下関であった分だと思うんですけど、なかなか私たちは県と協働でやったりすると、そういうのはなかなか人が来ないということがあるんですが、その他にも、例えばコープさんがやっている生協まつりとか、山口の青年会議所さんがされている5月のゴールデンウィークのまつりとかすごく一杯人が来るんですね。それぞれのコンセプトを打ち出しながら、でも頑張ってる人は来ている。今、企業との協働ということもあるので、私たち市民と、県とか、きらめき財団が実行委員会を作ったら、その成功しているもののノウハウと一緒に勉強させてもらおう。すごく全労済さんのよかったのは、例えばデューク(更家)さんという人が講演に来るんですけど、講演だけでなく、来た人が一緒に体操できるとか、県民団体さんも来ていいんですけど

も、ただ来て展示するんじゃないなくて、好きにフリーマーケットでも何でもしてお金を稼いで帰ってくださいと、場所代はただですと。だったらみんな来ますよね。県民活動団体とNPOに限っては、会場の人から募金をもらっていいです、企業さんは駄目だけど、NPOさんは好きなだけアピールして募金をもらってくださいということだったので、うちの団体なんかすごい頑張ってたたくさんもらって。だから、そういう参加される方にもインセンティブがある、参加して、例えば一緒にウォークして痩せるとか、参加したら自分たちの寄付金も集まるとか、できることならということで、販売する食事はそれぞれの団体で作って出して、国民性、私たちだったらケニアなんですけど、韓国とか自分たちでアピールできる。福祉施設の方だったら、施設のクッキーを販売できるとか。今提案したいのは、協働の中で、これからは企業さんとか、青年会議所とかがやっているところのノウハウを学ばせていただいて、何だったら声かけて一緒にイベントやりませんかとかいうのも、今後、参考書型のやるイベントを受託したり、団体のお勉強ということだと思います。

(会長)

ありがとうございました。

(委員)

委員のお話が私もすごくよくわかって、ふしの川の方で出させてもらって、寄付をいただきました。活動している団体さんたちが一堂に集って、いろいろなことに関われる場を持つというのは非常にいいなと思います。秋は結構イベントが重なるので、できれば連携して、いろいろなイベントが一箇所で人が集まるような情報収集を先にさせていただいて、会場も一緒に押さえてもらえるといいなと思います。結局、人集めというか、行きたいけどその日に自分の事業があるということになると、早めに押さえてもらって、他の人と同じ会場でやりましょうよとお声かけをして、多くの方が今まで県民活動と関係なかったけど来てみたらこういうこともやってるんだという連携を是非とっていただきたい。先日、萩三隅道路の開通のためにイベントをやったんですけど、雪が舞い散る中、道を歩くだけで5千人の人が萩と三隅側から来られたんです。ほんとに7キロあるのを全部歩かれたり、手押し車で来られているおばあちゃんやちっちゃい子が歩いているのを見て、これってすごいなというふうに思ったので。ちょっと違う新しい気がしましたが、今までにない視点、それから、先ほど言われたお互いが交流できる場ですとか、実際に体験できる、それからもう一つ言うとさっきからこちらが伝えている、連携をとって日程を合わせてみんなが集える大きな場所で、来てみたら思いもかけないものがあって楽しかったというふうにもっていてももらえるといいなとそんなふうに思いました。せっかくの日にちをみんなでもってもったいないなと思ってます。以上です。

(委員)

私はお祭り大好き人間なので、やっぱりお祭りというと出てくるんですね。今度の24日の日曜日には、小郡のふれあいセンターでもっぱら小郡のイベントをします。うちのPRなんですけど、里山からも草履作りで出る訳ですけど、そういうお祭りにも目を向けて、そこに来ている人たちをターゲットに、県民活動をちょっとでもPRできたらいいなと私は思って。また、ふれあい大使になってますので、お祭りにもきめ細やかに目を配って、そこでまた発信していくというふうな取組もあって、最終的にさっき委員さんが言われたように、期間があって、体一つどれに出ようかという感じなんですけど、連携・協働が言われているので、どーんと一つ一緒にやろうという意気込みで何かやると苦労しないですよ、人集めにね。いつも同じ雁首揃えて、何人集まったで成果が出たというふうなこと

はやめましょうというふうに言いたいなと思ってます。

(事務局)

今、おっしゃっていただいていることは、実際的に計画の中身ではないんですけど、私どもが具体的に事業を進める上で勉強しなければいけないこととか、改善すべき事項をずいぶんご指摘いただきましたので、来年どこまでそれが生かせるかわかりませんが、生かさせていただこうかと思っています。よろしく願いいたします。

(オブザーバー)

また、確かにこれまで同様の動員のやり方はもう改めないといけないなと思いますし、県民活動をやっておられる皆様方が主に中心になってやられるような形にもっていかないといけないという思いはしております。これから検討していきたいと思っています。

(会長)

ちなみに大学も秋はいろいろな行事があって、今回、下関で梅光学院大学はいかがですかと声をかけていただいたんですけど、やはり独自のいろいろな行事があるので申し訳ありませんでした。はい、ありがとうございます。

それではよろしいでしょうか。意見が出尽くしたようですので、皆さんにいろいろご意見いただきましたこと、ご提言いただいたことを踏まえて、計画改定の最終案のご提示をすることにしたいというふうに思っております。

では、続きまして、計画改定の今後のスケジュールについて事務局からご説明いただけますか。

(事務局)

今回いろいろご指摘を受けた点を踏まえまして、最終答申案を作ってまいろうかと思えます。3月の上旬には、山口県議会が開かれておりまして、厚生委員会で報告をさせていただきます。それを踏まえまして、来月13日ですけれども、これをもう一度、県民活動審議会を開催させていただきまして、最終報告答申案の確認をさせていただこうと思っております。その後、予定ですけれども3月19日に、会長さんから知事の方へ答申をするということで、最終的にまとめさせていただこうかと思っておりますので、よろしく願いいたします。ちなみに、13日の審議会の時には、今いろいろご指摘いただきましたけれども、来年度の事業につきましてもご説明できるかと思っておりますのでよろしく願いします。

(会長)

わかりました。では、次回は3月13日予定どおりということですね。10時からとなっております。会場は。

(事務局)

共用会議室をとっています。今回の議論ですと、小委員会を含めて取りまとめました計画については、ほぼこれで最終案ということですが、議会の方に計画を説明して議会の意見もお聞きしながら、意見があればこれに盛り込みたいと思っています。本審議会の委員の皆さんの任期が本年5月31日までとなっております。任期中、多分来月13日の審議会が、最終の委員の皆様方の審議会になろうかと思っておりますので、その辺りのことも含めて、13日に最終案の答申をいただければと思っております。よろしく願いします。

(会長)

今回の小委員会ですけれど、2月5日に第5回目が開かれたとありますけど、もうこれからは小委員会はありますか。

(事務局)

小委員会は十分審議を尽くしていただきまして、意見はすべてこれに盛り込んでおりますので、小委員会の方は前回2月5日に解散をしております。

(会長)

小委員会のご担当の方、お立ちいただけますでしょうか。(小委員会委員が自席で起立)
この方たちが5回にわたって忙しい中ご審議いただきました。どうもありがとうございました。では、その他について何か事務局からございますか。

(事務局)

最後に部長の方からごあいさつを申し上げます。

(部長あいさつ)

(事務局)

では、以上で審議会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

審議会終了 11:55